

がんばろう 南三陸町 復興第58号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
志津川広報センター
企画・編集 千葉伸孝

広島を中心とした南三陸町への「愛の福袋」節目によせて

「愛の福袋」活動、3度目の「のぞみ作業所」訪問



南三陸町への「愛の福袋」の被災者支援活動が、11月16日に一日掛けての活動となり、町内の3カ所に「愛の福袋」と「オペラ」

を届けに来てくれた。

今回は広島県をはじめとした山口県・石川県・静岡県、そして被災地の支援で知り合った石巻の阿部さん御夫婦も、活動に同行しての活動となった。初めに恒例となった「のぞみ作業所」の作業活動の見学からで、通所生の皆さんも3度目となる訪問で、顔なじみになり笑顔で迎えてくれた。10時の作業スタートで、まだ準備中の作業所だったが、突然の来所にも関わらずテキパキと作業の場所に付いた。

畠山施設長さんから、のぞみ作業所の資料のフوترが渡され、フوترには通所生の描いた絵が散りばめられていた。朝の多忙の中で畠山さんに説明を受け、作業風景を見学した。のぞみの皆さんへの「愛の福袋」の配布には、一人ひとりにメンバーが声を掛け寄り添い手渡した。指導員の方々にも福袋が渡されると、恐縮した様子の笑顔で喜んでいただいた。石巻の阿部さんも手作りの品を皆に持って来てくれて、「私も被災者です。共に頑張りましょう。」のメッセージが込められていた。

今回はプロのオペラ歌手である味香友子さんも広島から同行され、被災地にオペラの歌声を届けてくれた。作業所での絵葉書のデザインを見て、「ペチカ」を披露してくれた。「雪の降る夜は楽しいペチカ……」と、澄み渡る声が作業所に響渡った。通所生のみんなも初めての体験か、最初は驚きの顔を見せていた。二曲目はオペラの代表曲の「蝶々夫人」で、その声に「こんな近くで生のオペラの歌、素晴らしい」の一言に尽きた。三曲目に何を歌いましょうか？ の味香さんは「ふるさと」を選び、みんなで合唱した。通所生のみんなは味香さんの声に反応し、声を上げたり手を伸ばしたりする。その男性の手をそっと握ってくれた味香さん、「何かを感じてくれたんですね。」と、微笑み話してくれた。鋭い感性を持っていると通所生に感じた。一生懸命に自分の仕事をする姿に「愛の福袋」の皆さんも元気をもらったようだ。

震災後に生まれた園児に触れた事に、私は大感激だった。この子らの為にも大人が頑張らないで、誰かががんばるだろう。南三陸町の皆さんと一緒に！

被災後に生まれた園児との出会い感激にひたる

11時から11月1日に開園した「あさひ幼稚園」を訪問させていただいた。幼稚園では学芸会の練習や、施設の開始にあたり訪問客など、

その対応に追われる日々と、園の先生は話し、そんな中で「愛の福袋」の活動を受け入れてくれた。大きな建物だと遠くから見てはいるものの、内部の施設も全てが木造で電気もモダンな雰囲気を感じた。総ての木造は優しさ温かささえ感じる。この立派な木材は園長先生のお寺の、山門にあった樹齢300年前後の杉が被災にあい、その木を利用し幼稚園建設にあてたと言う事は、町民皆知るところである。園が所在する東浜団地の隣りに、幾度かの移転を繰り返しながら落ち着いた。



「愛の福袋」の支援活動は園の皆さんに、山口園の美味しい「みかん」と「サツマイモ」と、富山県の「チューリップ」を届けた。また、園児のみんなには、みかんのドレッシング・さつまいもなどの入った袋をプレゼントとして、一人ひとりに、会員のみなさんが配り、子供達の喜びの音が部屋に広がった。「さつまいも大好き！」とプレゼントの福袋に喜び、震災後に生まれた子供達に会えた事が嬉しいと、訪れた7人の「愛の福袋」の支援者は話す。また、昨年訪れた「戸倉小学校」にも、同等のみかんとサツマイモが贈られた。校長先生も快く受けてくれましたと、支援の輪が広がっている。

同行されたオペラ歌手の味香友子さんの、ピアノの弾く音色の中で、プレゼントを子供達にもらい、サプライズで「365日の紙飛行機」を歌うと、園児もいっしょに先生に合わせ合唱した。忙しい園の生活の中で突然のこの機会を与えてくれた事に、「あさひ幼稚園」さんに感謝を致します。

こんな最適な環境で、町民が見守る地域で、元気に素直に子供達が成長し、新しい南三陸町の町づくりの担い手になって欲しいと、子ども達への期待を、会員の皆さんは話してくれた。

志津川中仮設の皆さんに本格的なオペラのプレゼント！



今回の最大の活動には、被災地「南三陸町」の皆さんに、本物のオペラの歌声を伝えようとの活動だった。

味香さんは広島でも3.11の被災地の支援コンサート、「愛の福袋」の活動に賛同され続けていた。「一人でも被災地の皆さんを歌で励ましたい」との気持ちが、今回の会場とした志中集会所でも伝わってきた。会場には25名を超える皆さんが集まり、山下代表の挨拶に始まり、参加された5名が紹介され、味香さんのオペラコンサートが始まった。

最初に本格的な歌の「乾杯の歌(サルーツ)」が披露された。会場の皆さんに歌の最後に「サ

ルーツ」と叫んで下さい、のお願いに、仮設の皆さんと一緒に叫んでくれた。その後皆で「もみじ」を歌った。海外の戦下の女性の支援で中東の砂漠をジープで走った話の後に、「月の砂漠」を皆さんのキイに合わせて合唱した。次に悪い事をした人が改心をした歌として「アメージング・グレース」の、オペラの力を感じさせる曲に、観客の驚きの声が聴かれた。

その後「愛の福袋」の配布があり、色とりどりシヨールを全員にプレゼントし、冬に向かう必需品などを入れた袋を配った。その他にも「ランチョンマット」や「レインコート」も数少ない希望者に配り、ジャンケンで勝った方にはバックをプレゼントし、会場が二番目に盛り上がった。志中仮設にはこれまでで3回の福袋の配布となった。

佐々木自治会長と味香さんの掛け合いの会話にも、会場が多くの笑いで包まれた。「これで終わりです」の言葉に、佐々木さんの掛け声で「アンコール」の拍手がまき起こった。突然の要望に何も準備してなく、「何がイイですか」の問いに、「上を向いて歩こう」の歌を選曲した。この会にピッタリの歌で、集まった皆さんも良く知っていて、全員で合唱をした。私はこの場所に同席できた喜びと、「この支援の姿を町の皆さんに伝えたい」と思った。今回が最後の来町と話す、「愛の福袋」にありがとうございますの言葉を送った。

最後は皆さんを南三陸町の象徴となった、防災庁舎の特設の祭壇に案内し手を合わせた。

志高で仮設住民とのお別れ会

11月10日「志津川高校仮設住宅住民とのお別れ会」が開催された。現在、志津川高校のグラウンドには町の被災者の「仮設住宅」がある。震災後は51世帯160名が暮らしていると、及川副自治会長が謝辞で語り、今は45世帯が暮らしている。住宅再建と災害公営住宅の建設も終盤となり、今年度内にはグラウンドの仮設は解体となる予定だ。



生徒の代表の挨拶では、野球部の練習で仮設の敷地内にボールが飛び込んで、笑顔で迎えてくれる住民の皆さんの事は忘れないと語り、仮設生活の住民は「高校生の文化祭・運動会の活動に元気を頂いた。」と、高校仮設の生活を思い出していた。高齢者が多く、車イスの方を温かく世話する生徒の姿があり、山内校長の生徒指導が地域民への感謝と敬愛に繋がっていた。

沼田地区民70名が町防災訓練に参加

11月6日午前8時15分にアリーナで、沼田行政区の町の防災訓練の活動が始まった。アリーナに避難し避難者名簿の記入があり、70名余りが参加した。防災訓練は町からの行政区要請で、怪我人として重症・軽傷・その他で、各6名ずつが医療の訓練と、消防署の怪我人救助に参加した。

10時まで訓練があり、町内の各地で開催された。9時30分には広域消防の指導を受けながら、震度5の地震の対応訓練で、椅子に座っている人は落下物から頭を守り、立っている人はしゃがんだままで地震が収まるのを待った。

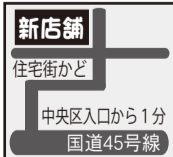


会場入りした時には「防災ヘリ」が町の駐車場に飛来し、庁舎前の駐車場では消防放水訓練が行われ、アリーナ脇では防火婦人部の炊き出し訓練が行われていた。

一年間ありがとうございます

防災庁舎隣りから

理容 **アート**



志津川中央区団地
入口角にオープン!

お気軽に。電話予約が便利です。
電話 (0226) 46-4087
志津川字中央団地内

2017年もよろしくお祈いします

弊社社長 妻の喪中につき
年末年始のご挨拶をご遠慮申し上げます
平成28年12月

千葉総合印刷株式会社
社長 千葉賢二郎
専務 千葉伸孝

平成28年全国の皆様のご支援に感謝申し上げます
[2011.3.11] 大震災大津波から5年10ヵ月を経過しますが、
復旧復興はまだだめで、被災者への寄り添い活動を願い、
早期の完全復興を祈念いたします。

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成28年(2016年) 8月の出来事
～ 地元報道より～

南三陸町

◇南三陸町は災害公営住宅の空き室対策として、要件を緩和し被災者以外のI・Uターン者に利用してもらうことで、定住者の増加を図る。7月28日現在735戸の公営住宅を用意し、59戸が空き室となっている。

◇南三陸町で「少年消防クラブ全国大会」が、歌津地区の平成の森しおかぜ球場で開催される。全国から43団体300人が参加し、気仙沼・本吉からは階上中・歌津中が出場した。少年消防クラブは、将来の地域の防災の担い手育成が期待されている。歌津中は4位で、階上中は6位と活躍した。

◇南三陸町で「日韓高校生交流キャンペーン」で高校生が事業発表会を行ない、主要都市での祭り開催などで、両国の活性化へのアイデアなどを探った。

◇戸倉波伝谷の398号の復興道路が10日に開通式となる。開通にあたり観光地のアクセス向上・有事の際の孤立化防止などの役割を果たすこととなる。

◇兵庫県明石市で「プレたこサミット」が5日開催され、南三陸町の名産のタコをPRする。

歌津地区で2つの祭りで盛り上がる。歌津復興夏祭りが伊里前福幸商店街で開催され、「海の唄カラオケ」や「マドロス」などで5千人が来場した。また、田の浦地区では、「海の大運動会」が開催され、ウニ採りゲームなど、色々な競技を楽しんだ。

◇南三陸町でニホンジカの「被害防止研修会」が、猟友会など関係者約80名が参加し開催された。2014年の被害は前年度の1.3倍で約1850万円だった。対策の一つとして放置果樹の伐採をあげた。◇水産加工の人手不足が深刻な状況となっている。県は求人広告などの補助をする。事業所には「求職者に添った条件を」と働きかけている。

南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見れます。

8月の出来事

気仙沼市

気仙沼市本吉町大谷海岸の防潮堤について、「砂浜を残して欲しい」との住民の要望を受け、国道45号を9.8mの堤防を後退させ、一本化の兼用する事を県が明らかにした。県内有数の海水浴場スポットが、震災前の規模で残される。背後地はかさ上げされる。

◆気仙沼市早稲地区の甘酒地蔵尊祭が7月31日に開催された。県指定の無形民俗文化財として「早稲谷鹿踊」が奉納され、地域の繁栄を願って、厄災疫病を祓い、先祖の霊を供養した。

◆気仙沼市の朝日町造船団地の整備が、用地取得に時間がかかり、共用開始を2年延期した。

◆「鹿折認定こども園」が入札の不調で、来年度開園に赤信号となり、保護者は戸惑っている。入札には8社が応札した。いずれも予定価格を上回り、3回目に残った1社と見積合わせとなったが不調だった。

◆気仙沼市大曲一般廃棄物最終処分場(九条)が、4年後には満杯となり、新処分場も九条に2021年度の共用を目指す。一部で異論もでている。

◆サンフレッシュ小泉の「波乗りトマト」の生産が2年目を迎えて定植をおこなっている。昨年は1億円に達し、2年目の目標を1億7千万円としている。

◆気仙沼市の三日町・八日町は、「高齢者の買い

◇志津川小4年佐藤ひま里さんが、プレゼンテーション入力で優勝し、全国大会2冠を達成した。佐藤さんはアビバ志津川教室でパソコンを学んでいる。

◇志津川野球クラブは気仙沼・本吉スポ少交流大会で、4年ぶりに優勝した。決勝は14対5で中井小に快勝した。

◇気仙沼・本吉地域農林振興推進協議会では「南三陸ねぎ」のブランド化を目指し、11月に初めてのレシピコンテストをする。管内の飲食店に使用を呼び掛け、現在55店が加盟店となっている。

◇南三陸町は町が所有する、仮設集会所や談話室にある備品を町内の防災集団移転団地の集会所などに無償で譲渡する。テレビや冷蔵庫・物置・食器棚などがある。

南三陸町は2016年度分の住民税の課税されない住民や、所得の低い人を対象にする「臨時福祉給付金」などを8月31日から受け付け給付する。臨時福祉給付金は1人につき3千円で約3200人、「障害・遺族年金受給者向け給付金」は385人で、1人あたり3万円となっている。

◇宮城県は気仙沼市・南三陸町の沿岸の交流人口拡大に対し、沿岸部モデル施設整備事業として企画案を募集し、施設整備・改修経費の3分の2が補助される。

◇歌津地区の防災集団移転団地に、震災後に町内初めての「板倉の家」が建設中。建設主は平成の森に住んでいた三浦さん(67才)。南三陸杉を8割以上使った地元の伝統技術で住宅を再建し、貢献したいと話す。

◇歌津公民館の「大人のぬり絵教室」が、25日から平成の森会議室で開催された。

◇南三陸町で戦没者追悼式が20日開催され、町内の遺族・関係者が150人集まり、恒久平和の実現に一丸となることを誓った。

東日本大震災からの復興を願うコンサートとシンポジウムを合わせた「コンポジウム気仙沼2016～加川広重画『南三陸の黄金』と共に～」が開催され、南三陸町防災庁舎の遺構の巨大絵画を背にコーラスも行った。将来の大震災被災地気仙沼を語り合う会となった。

◇南三陸町入谷地区に7月「南三陸エリアキャ

物支援」として、配食などの生活支援サービスの立ち上げを進め、検証をスタートさせた。専用の端末で商品を購入するなど、拠点施設での商品受け取りを、準備委員会は取り組んでいる。

◆気仙沼港の「カツオ水揚げ」は、20年連続日本一へ！現時点では千葉勝浦に2千トン差だ。今季は30億円を突破している。

◆気仙沼市鹿折地区で11日に「まちびらき」。活気溢れる地域を目指す。

◆気仙沼市では昨年9月に災害公営住宅入居者への訪問健康調査を実施した。9住宅717人を対象に、65.8%の472人から回答を得た。その内65歳以上は65.5%を占め、7割近くが「病気になる」と答えた。震災後の「心の問題」などは減ってきている。

◆気仙沼市の住宅再建意向調査で、未定・不明が137世帯で、「今から考える」も21世帯あった。7月末現在で仮設(みなし仮設)の入居世帯は2519世帯5925人となっている。

◆気仙沼市の7月末の生活再建支援金の状況が発表された。申請件数は4082件で建設(200万円)が2639件と6割を占め、補修(100万円)が1014件、賃貸(50万円)で429件となった。加算申請もやっと半分で、防集の引越しもピークとなり増加している。

◆気仙沼市松岩小学校4年の高田麻衣さんは、「マクドナルドオリンピックキッズ」として参加し、リオ五輪でキューバ選手団と行進した。各国キッズとも交流し、世界の祭典に感激し帰国した。

◆気仙沼市は子育ても環境の充実へ、庁内研究チームが始動し、民間団体との意見交換や、情報誌も既に発行している。

ンパス宿泊棟」が完成し、大学生たちの調査・研修拠点となっている。今後の震災復興の課題と支援として、22日には大正大学から31人が地域コミュニティについて考える。

◇22日の台風9号による被害が発生し、袖浜・戸倉合羽の2地区で倒木があり、戸倉地区では旧国道398号の冠水により、戸倉小入口分岐点から旧戸倉中入口までが一時通行止めとなった。

◇大阪府高齢者大学の受講生が大学文化祭のバザーでの収益金20万円を南三陸町佐藤町長に手渡した。15年度は2500人が受講し、生涯学習や社会参加活動に取り組んでいる。

◇南三陸町では9月1日から行政発行書類コンビニ交付の開始が、行政の必要な事務手続きを怠り延期となった。住民サービスとして、コンビニで住民票や各証明書が交付できるはずだった。

JR気仙沼線が仙台方面へのBRTの通行を町は決断した。町は戸倉駅以南の復旧方針について検討しているものの、戸倉地区の復興が最優先にとの理由からだ。地区住民は駅周辺は荒廃したのでそのままでもいい、BRTの早期復旧など、多くのBRTでの方向性を話す。

◇南三陸町で都内の高校生と職員が、地域防災のリーダー養成の一環として、合同キャンプなどで防災について学んだ。

◇気仙沼土木事務所管内の海岸保全施設復旧工事が、予定通り来年度完成と報告された。着工率は97%となっている。

◇南三陸町歌津地区「平成の森」の自治会の解散式が27日おこなわれた。発足から約5年、互いに支えあい苦難を乗り越えてきた。ピーク時には218世帯の中に、182世帯570人が入居していた。

◇南三陸町は台風10号の猛威に対し、対策本部を立ち上げ、開設された避難所には身を寄せる住民の姿もあった。午前7時には学校閉鎖となり、列車やBRTなども運休となった。強風や大雨で道路の冠水もあり、がけ崩れの恐れもなど、交通機関への影響が出始めている。

◇南三陸町有志団体が、大船渡・気仙沼線の鉄道を次世代へと鉄道の整備を求め1万4千人の名簿を、小野寺会長が佐藤町長へ手渡した。

◇旧戸倉中学校を改築し9月10日に公民館として開館する。被災した旧戸倉中学校を活用し、震災記録や文化財室も併設する。

◆東洋大学の学生や教師が、気仙沼市水梨コミュニティの住民の健康づくりに取り組み、5年余りが経過し活動にひと区切りと親睦を深めた。

気仙沼市の生活保護家庭が増加している。東日本で一時的な義援金収入増で331世帯となり、2011年の379世帯まで87%に戻っている。半数以上が高齢者世帯となっている。

◆気仙沼魚市場でサンマ水揚げが25日あり、23トンにのぼった。昨年は数量1万1770トンで、金額は23億8100万円だった。

◆気仙沼市の被災住民の生活の変化や、高齢化の影響で「介護タクシー」の利用が増加し、需要も多いと言う事で事業所も倍となっている。

◆気仙沼市の「空き家バンク」の事業を7月から始めたものの、市の当初の調査で200件を見込んでいたが、8月現在のところ所有者の登録は「ゼロ」となっている。所有者に文書を送付し、登録を呼びかけている。

◆気仙沼市図書館は、「雑誌スポンサー制度」の申請が好調だ。企業が購入した雑誌にカバーに企業広告を掲載できる制度で、今月7日で52誌となり、制度前の3倍となった。

◆気仙沼市の大島「小田の浜海水浴場」の入込数は、今年の3割減の1万0821人だった。

◆気仙沼市は魚町・南町地区計画で、建築に用途などの制度を加え、景観維持のルール策定を進める。

◆気仙沼市内公民館の2015年の利用状況の報告で、講座・学級の9割が回復し、工夫や奏功により1万6千人が利用している。